

音楽科学習指導案

作成者：野上華子

1. 指導内容：〔共通事項〕 テクスチャ
〔指導事項〕 A 表現 (3) 創作 ア、イ (イ)
2. 単元名： 言葉のリズムを生かして学級目標ラップをつくろう
3. 対象学年： 第1学年
4. 教材： 「くいしんぼうのラップ」(構成・崇作 和田)
5. 教材と単元について

中学1年生のありのままの素直な声で、のびのびと表現できる時期を意識し、「声」を最大限に生かせる単元を設定した。本単元では、最初に「くいしんぼうのラップ」を通して、さまざまな重なり方を学習する。この教材は、3つのパートが重ねられており、構成的にはA～Dの4つの部分に分かれている。同じ言葉を他のパートが追いかけるように演奏する「追いかけ型」から始まり(A)、次第に違う言葉が重なりや合いの手が表れ(B)、Cの部分では3つのパートが異なる言葉を同時に歌い合わせる「同時進行型」で表現されている。そして最後は、それまでの重なり方が濃縮されたように組み合わせで登場し、「いただきまーす」の全体のユニゾンでしめくられる。それぞれの部分によってテクスチャがはっきりとしているため、知覚・感受がしやすい。ここで学習した重なり方を生かして、学級目標ラップの創作に入る。

学級目標ラップは、一つのグループで4小節の作品を創作し、それらをつなげて一つの学級目標ラップを完成させる。自分のグループで完結するのではなく、最終的に学級全体での演奏を目標とすることで、各グループの創作に活動に責任をもたせようと考えた。

創作活動では、学級目標をテーマに、まず土台となるメインの言葉を考え、リズムを考えさせる。ワークシートでは音符は書かず、マス目の中に文字を埋めるようにし、見てすぐわかるような楽譜にした。言葉の長さに関しては指定せず、使う言葉をグループで自由に設定できるようにし、生徒の思いをアンサンブルに込められるようにする。さらに、メインの言葉に重ねる言葉や掛け声を3種類まで考えさせ、「くいしんぼうのラップ」で学習した重なり方を生かして、4小節のみのラップを創作する。完成した作品を教師が見て、全体の流れを考えて順番を決定する。

次に、創作グループを一度解体し、ワールドカフェ的に分散して、他のグループの作品について改善アイデアを出し合う時間を設定する。1人はそのグループに残るようにグルーピングし、他グループの人に作品について説明したりグループの意図を伝えたり、話し合いの進行としての役割を指示する。他グループの作品を初めて演奏することで、難しさや盛り上がり方を感じ取ることができる。また全体を見たときの作品の位置づけなどさまざまな視点から感想を自由に話し合うことは、客観的な作品の評価となる。それらの感想から、さらに表現をイメージにそったものにするための手段を選び取って、アイデアとして提案させる。アイデアは、色ペンでグループワークシートに書き記させる。その提案をもとに、創作グループで再度検討して、完成とする。

学級全体で演奏する前に各創作グループから表現の工夫を提案させる。それをもとにクラス全体で練習し、最終的に演奏を録音する。自分たちグループがつくった4小節が、全体演奏の中でどのような役割や効果をもっているかは、自分たちが創った作品だからこそ「自分ごと」として考えることができる。録音を客観的に聴き、そこから感じ取ったことも含め、自分のグループが創作した4小節のラップについての紹介文を書かせる。

始終、声を生かした活動のため、お互いの声質の違いを感じ取って、それらを生かせるような構成を考えるグループも出てくる。自分たちの思いやアイデアが「声」によってすぐに音楽に反映されたり、積

極的に声を重ねることが豊かな表現につながったりすることで、創作の楽しさを知りつつ、声による表現の可能性についても感じ取ってほしい。

6. 指導計画：(全4時)

ステップ	学 習 活 動	時数
経 験	「くいしんぼうのラップ」を演奏し、リズムの重なり方や特徴について知る。 グループで4小節の学級目標ラップをつくる。	第1時
		第2時
分 析	創作した4小節の作品について、改善点や新しいアイデアを出し合い、表現の工夫の手がかりを得る。	第3時
再経験	創作した4小節の作品について、さらにリズムや重ね方の工夫をして、イメージに沿った表現を考える。	
評 価	つなげた学級目標ラップを、学級全体で表現の工夫をして演奏し、評価する。	第4時

7. 評価規準：

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 リズムの特性およびリズムの重なり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、イメージに沿ったリズムの重ね方技能を身に付け、創作で表している。	思 リズム、テクスチャ（リズムの重なり方）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもってしている。	態 リズム、テクスチャ（リズムの重なり方）の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

8. 展開：

活動のねらい	生徒の活動	指導者の活動	評価
経 験	「くいしんぼうのラップ」を演奏し、リズムの重なり方や特徴について知る グループで4小節の学級目標ラップをつくる		
◆リズムがさまざまなに重なり合う音楽に親しむ	1. くいしんぼうのラップの模範演奏を聴き、印象に残ったところや気づいたことを話し合う。 2. さまざまな重なり方を知った上で、くいしんぼうのラップをクラス全体で演奏する。 ・追いかけて型…同じ言葉を、異なるパートが追いかけるように演奏する ・同時進行型…異なる言葉を、いくつかのパートが同時に演奏する ・合いの手…掛け声のような短い言葉を、合間に演奏する ・ユニゾン…全体もしくは複数のパートが、同じ言葉を、同じリズムで同	○なぜ印象に残ったのかを合わせて尋ねる。 ○重なり方に関わる発言が出れば取り上げ、その部分のみを演奏して体験させる。(次の活動を取り入れる) ○クラス全体を3分割して演奏させる。 ○必要に応じて部分的に取り出しておこなう。	

<p>◆リズムの重なり方による雰囲気の違いを理解する</p> <p>◆さまざまなリズムの重なり方を生かしたアンサンブルを創作する</p>	<p>時に演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソロ…一定の長さを、一つのパートが演奏する <p>3. 演奏したり聴いたりして、重なり方でどのように雰囲気が変化したか考える。</p> <p>4. 学級目標ラップを創作するにあたって、使いたい言葉をグループで考える。</p> <p>5. グループで4小節の学級目標ラップを創作する。</p> <p>6. 自分のグループの作品を練習し、できたものを順番に通して発表する</p>	<p>○雰囲気が変化しただけでなく、また重なり方によって強弱など演奏が自然と変化した部分があればたずねる。</p> <p>○学級目標の文言だけでなく、クラスへの思いなども自由に入れてよいことを伝える。</p> <p>○言葉の数は、メインとなる言葉＋重ねる3種類＋合いの手。</p> <p>○重なり方について、「くいしんぼうのラップ」以外のものも参考にたえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分割型…一つの言葉を、いくつかのパートで分割して演奏する ・拡大型、縮小型…言葉のリズムの音価を変えて構わない。 <p>○それぞれのグループの重ね方をみて、教師が順番を決定し、提示する。</p>	<p>知 〈ワークシート〉</p> <p>態 〈観察〉</p>
<p>分析</p>	<p>創作した4小節の作品について、改善点や新しいアイデアを出し合い、表現の工夫の手がかりを得る。</p>		
<p>◆他グループの作品について、知覚・感受する</p> <p>◆イメージに合った表現を、全体の構成や重なり方、演奏の工夫などさまざまな面から考える</p>	<p>7. 新しい仮のグループで、一つの班の作品を演奏し、感想を述べ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元のグループから残った1人は、その作品についてや班の意図、イメージなどを説明しつつ、進行する。 <p>8. 感想をもとに、さらにどのように改善したらよいかアイデアを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出たアイデアは、元の作品の消すのではなく、提案として、色ペンで書き加える。 	<p>○グルーピングに関しては、1人は元のグループに残るようにし、ワールドカフェ的にすべての班をシャッフルする。</p> <p>○出し合うたびに、声に出して体験するよう促す。</p> <p>○新しく提案するときは、その理由なども伝えられるようにする。</p> <p>○順番(そのグループの作品が演奏される位置)も考えながら提案させる</p>	<p>態 〈観察〉</p>
<p>再経験</p>	<p>創作した4小節の作品について、さらにリズムや重ね方の工夫をして、イメージに沿った表現を考える。</p>		
<p>◆他者からの提案を受けて、改善について考える</p>	<p>9. 班をシャッフルしたときにどのような意見が出たのか共有する。</p>	<p>○残っていた1人が中心に話をすすめさせる。</p>	<p>態 〈観察〉</p>

	10. 提案を受けて、さらにどのように改善するのかグループで考える。	○提案をそのまま受けてもよいし、グループの意図と違えば工夫の仕方を変えてもよいことを伝える	
評価	つなげた学級目標ラップを、学級全体で表現の工夫をして演奏し、評価する。		
◆全体で表現の工夫を入れて演奏する	11. それぞれのグループから、気を付けて演奏してほしいことを発表する	○モニターに全体の学級目標ラップを映し、意見を書き込んでいく	技 〈ワークシート〉 思 〈ワークシート〉
◆自分の作品の評価をする	12. 全体でつなげて演奏する	○録音する	
	13. 録音を聴きつつ、班の作品についてふりかえる	○工夫アピールポイント3つと、全体の中での自分の班の作品の位置づけや役割、影響などを個人で振り返り、作品の紹介文を作成する。	